

令和4年度 摂食嚥下支援研修会

令和5年1月22日(日) 9:20~12:00【ハイブリット形式】

酒井翔悟先生(30分)

「精神科病院で内視鏡検査、摂食嚥下リハビリを行なった症例報告」

米山武義先生(120分)

「口腔ケアから誤嚥性肺炎予防そして人間復活

—時代の要請としての多職種連携の展開—」

～開催にあたって～

コロナ禍も3年が経過しましたが、いまだ終息が見えません。さらに今年はインフルエンザの同時流行も懸念されています。

口腔ケアは、口腔内の菌周病原細菌を減らすことで、かぜやインフルエンザのウイルスが細胞へ付着することを阻害できることが明らかになっています。さらに新型コロナウイルスもインフルエンザウイルスと同じ付着様式のため、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の予防にも有効と考えられています。また、口腔ケアは高齢者における口腔機能低下による誤嚥性肺炎のリスクを減らす効果があることもわかっています。日本人の死因で肺炎は上位を占めており、このうち90%以上が高齢者で、その60%が誤嚥性肺炎といわれています。

社会の高齢化が進み、いよいよ団塊の世代が後期高齢者となる2025年を目前に、今年度の摂食嚥下支援研修会は「誤嚥性肺炎の予防」をテーマに開催します。

講師の米山武義先生は、口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防効果を初めて報告(世界五大医学雑誌のひとつTHE LANCETに掲載)した研究グループの一人です。口腔ケア、口腔健康管理(口腔衛生管理、口腔機能管理)が人々の健康のみならず、社会にもたらす恩恵を熱く語っていただけます。

ぜひ多数ご参加下さい。(参加申込〆切:令和5年1月10日)

